



# 「地理総合」における「生活文化の多様性と国際理解」の単元計画

神戸大学附属中等教育学校 高木 優 (たかぎ・すぐる)

—使用教材—

『高等学校 新地理総合』

『新詳高等地図』



## 1 はじめに

2022年度から実施される「地理総合」では、3つの大項目の中に、5つの中項目が設定されている。そのなかの中項目「B(1)生活文化の多様性と国際理解」は、「場所や人間と自然環境との相互依存関係などに関わる視点に着目して、世界の人々の生活文化を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するとともに、世界の人々の生活文化の多様性や変容、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などを理解できるようにする」ことが、『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』では求められている。

また、「ここでの学習は国際理解を主なねらいとしており、学習対象はあくまで「世界の人々の特色ある生活文化」であって、すでに中学校社会科地理的分野において州ごとに「世界の諸地域」を学習していることを踏まえれば、ここでの学習がその繰り返しとならないよう、また、「地理探究」における「現代世界の諸地域」の学習とも重複することのないよう、厳に留意する必要がある」とも、明記されている(学習指導要領解説引用部分の下線は編集部による。以下同様)。

それでは、ここで示されている中学校社会科地理的分野における州ごとの「世界の諸地域」の学びや「地理探究」における「現代世界の諸地域」の学びとはどのようなものか確認することで、「地理総合」における中項目「B(1)生活文化の多様性と国際理解」の学びを捉えなおしたい。

## 2 中学校社会科地理的分野における州ごとの「世界の諸地域」の学び

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』では、「この中項目は、世界の諸地域の基礎的・基本的な

知識を定着させるという観点、また汎用性が高いという観点から、「① アジア」、「② ヨーロッパ」、「③ アフリカ」、「④ 北アメリカ」、「⑤ 南アメリカ」、「⑥ オセアニア」の六つの州からなる小項目で構成している」と示されている。

また、「空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。そうした学習の全体を通して、世界の各州の地域的特色やそこで見られる地球的課題と地域的特色の関係を理解できるようにすること」が求められている。

## 3 「地理探究」における「現代世界の諸地域」の学び

『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』では、「取り上げる地域は、行政的な区分や州による区分といった形式的な地域に捉われることなく、例えば、地球的課題に関連する指標によって地域区分された特徴が顕著な地域や対照的な地域を取り上げるなど様々な対象地域が考えられることに留意する必要がある」と示されている。

また、「地域に見られる様々な事象を項目(例えば、自然環境、資源、産業、交通・通信、観光、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教など)ごとに取り上げ、整理し、それら取り上げられた事象全体を通して地域的特色を見いだしたり、地球的課題を学習したりする」ことが示され、「地域に見られる特徴的な事象を取り上げ、その事象に関連する様々な他の事象を関連付け、特徴的な事象のもつ意味を通して地域的特色を見いだしたり、地球的課題を学習したりする」と記載されている。

さらに、「取り上げた地域と対照的又は類似的と思われる他地域とを比較することによって、それぞれの地域の地域的特色を見いだしたり、地球的課題を学習したりする」ことが示されている。

## 4 「地理総合」における「生活文化の多様性と国際理解」の学び

中学校社会科地理的分野における州ごとの「世界の諸地域」の学びと「地理探究」における「現代世界の諸地域」の学びから、「地理総合」における「生活文化の多様性と国際理解」では、どのような学びが求められているのであろうか。

それは、例えば、地理的な諸課題を通して、中学校社会科地理的分野では行わなかった同一スケールの州という枠組みをこえた事例地域を設定し、それらの地域の状況を深く学んだり、比較したりすることから、「世界の人々の特色ある生活文化」を学習対象とする学びである。さらにそこから、世界の人々の生活文化の多様性や変容、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などを理解できるようにする必要がある。ここであらためて留意しなければならないのは、「地理探究」とは異なり、項目（例えば、自然環境、資源、産業、交通・通信、観光、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教など）ごとに地誌学習を行うのではない、ということである。

それでは、この「地理総合」における「生活文化の多様性と国際理解」の学びを実践するために、「教科用図書」いわゆる教科書をどのように活用すればよいのか、令和4年度以降用『高等学校 新地理総合』（以下、教科書）、『新詳高等地図』（以下、地図帳）をもとに、示したい。

## 5 「地理総合」における「生活文化の多様性と国際理解」の単元計画

そもそも、「地理総合」は、「持続可能な社会づくりを目指す、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現

代の地理的な諸課題を考察する科目」である。さらに、「現代世界や生活圏の諸課題について、主に主題的な方法を基にして学習」する必要がある。

地理的な諸課題について、教科書では、第2部「国際理解と国際協力」の第2章「地球的課題と国際協力」に、地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題が記されている。まず、これらの地理的な諸課題を、科目全体で考察する場合の展開例について紹介したい（表1）。表1は、新学習指導要領の趣旨に即した展開例であろう。指導要領の大項目Aから順に授業を行うなかで、中項目ごとに地理的な諸課題を主題としている。例えば、「A 地図や地理情報システムで捉える現代世界」では、地理的な諸課題として地球温暖化を主題としている。地球温暖化を主題として学習を進めていくなかで、標高を読み取り、海面上昇による浸水の可能性について考察したり、各国の二酸化炭素の総排出量や、1人あたりの排出量のような同じテーマで異なる表現方法の地図を比較したりする。そこで生徒たちが地図を読む技能を身に付けることの必然性がみえてくる。

同様に、B（1）で地球環境問題の中の熱帯林の破壊について、B（2）で資源・エネルギー問題、人口問題、食料問題、C（1）で防災、C（2）で都市・居住問題を、主題として学ぶ単元構成が考えられる。

また、教科書の第2部「国際理解と国際協力」の第1章「生活文化の多様性と国際理解」では、追究事例としてオセアニア、東南アジア、中央アジア・西アジア・北アフリカ、インド、ラテンアメリカ、サハラ以南アフリカ、ロシア、アメリカ合衆国、東アジア、ヨーロッパが記されており、それらの追究事例には、自然環境（地形・気候）、言語・宗教、歴史的背景、産業の営みなどの視点が設定されている。これらを活用した展開例を紹介したい（表2）。表2は、地球環境問題を主題に「B（1）生活文化の多様性と国際理解」の単元を構成する展開例である。たとえ同じ地球環境問題を有していても、それぞれの地域で生活文化は異なっており、地球環境問題を通して、世界には多様な生活文化があるということを生

表1 地理的な諸課題を科目全体で考察する展開例

大項目	中項目	地理的な諸課題
A	地図や地理情報システムで捉える現代世界	(1) 地球温暖化
		(2) 生活文化の多様性と国際理解
B	国際理解と国際協力	(1) 熱帯林の破壊
		(2) 地球的課題と国際協力
C	持続可能な地域づくりと私たち	資源・エネルギー問題
		人口問題
		食料問題
		防災
		都市・居住問題

表2 地球環境問題を主題に単元を構成した展開例

地球環境問題	世界の気候と人々の生活	視点	『新地理総合』における追究事例のテーマ	『新地理総合』で取り上げた国・地域
熱帯林の破壊	熱帯の生活	自然環境(地形・気候)	モンスーンの影響を受ける地域での生活	東南アジア
		歴史的背景	移民の歴史と人々の生活の関わり	ラテンアメリカ
砂漠化	乾燥帯の生活	言語・宗教	イスラームと人々の生活の関わり	中央アジア・西アジア・北アフリカ
		歴史的背景	植民地支配の歴史と人々の生活の関わり	サハラ以南アフリカ
大気汚染と酸性雨	温帯の生活	産業の営み	地域統合が人々の生活や産業に与える影響	ヨーロッパ
			経済成長による人々の生活の変化	東アジア
地球温暖化	熱帯の生活	自然環境(地形・気候)	乾燥した大陸と太平洋の島々での生活	オセアニア
	亜寒帯・寒帯の生活	歴史的背景	国家体制の変化と人々の生活の関わり	ロシア

徒自らが見だし、地球環境問題解決のためには国際理解が大切であると気付いていくことを目的としている。この展開例に合わせ、教科書の関連するページを効果的に活用する。地球環境問題を主題とすると、世界の気候や設定された視点を通して、追究事例を考察し、生活文化の多様性に気付く学習を設定しやすい。

それでは、地球環境問題を主題とした場合、教科書や地図帳を活用しながらどのような展開が考えられるであろうか。まず、熱帯林の破壊を主題に、東南アジアとラテンアメリカを比較する。両地域とも同じ熱帯気候区に属し、熱帯林の減少が地理的な諸課題となっている地域であるが、変動帯の影響を受け山岳地域が多い東南アジアと安定陸塊が広がり平坦な地域が多いラテンアメリカは対照的である。このことに気付くために、地図帳 p.23～26 「①東南アジア」、「①東南アジア要部」や p.91～94 「①南アメリカ」、「①南アメリカ要部」などから、地形や植生の広がりを見わたすといった方法が考えられる。また、早くから直接ヨーロッパの影響を受け、今なお強く影響を受けているラテンアメリカと直接ヨーロ

パやアメリカ合衆国の影響を受ける前に、中国やインド、ムスリム商人の影響を受けた東南アジアでは、その生活文化も異なる。このことを、教科書 p.102 1 「ラテン系の人々とアフリカ系の人々の移動」や p.104 1 「リオデジャネイロ(リオ)のカーニバル」、p.105 5 「ラテンアメリカの主な言語と人種・民族」(図1)、p.83 5 「東南アジアの交易と宗教の伝播」、6 「東南アジアの言語と宗教」(図2)、7 「ワットプラケオ」などを活用しながら見だししていく。このように共通する地球環境問題を通して、いくつかの地域を比較し、その過程で、教科書で設定されている視点から、「世界の人々の特色ある生活文化」を学習する単元の構成が考えられる。

同様に、砂漠化を主題に、中央アジア・西アジア・北アフリカとサハラ以南アフリカを比較する。ともに砂漠化が地球環境問題となっている地域であるが、イスラームの影響を受けるなかで、主に3つの言語集団に分かれる中央アジア・西アジア・北アフリカと旧宗主国の影響を強く残すサハラ以南アフリカでは、その生活文化が異なる。地図帳 p.41～42 「①アフリカ北部」や「②サヘル」の砂漠化と人口集中、教科書 p.151 4 「サヘルでの放牧」、5 「サヘル周辺の家畜の増加率」や p.91 10 「中央アジア・西アジア・北アフリカの言語分布」や p.110 3 「アフリカ諸国の主な使用言語」などから読み取って

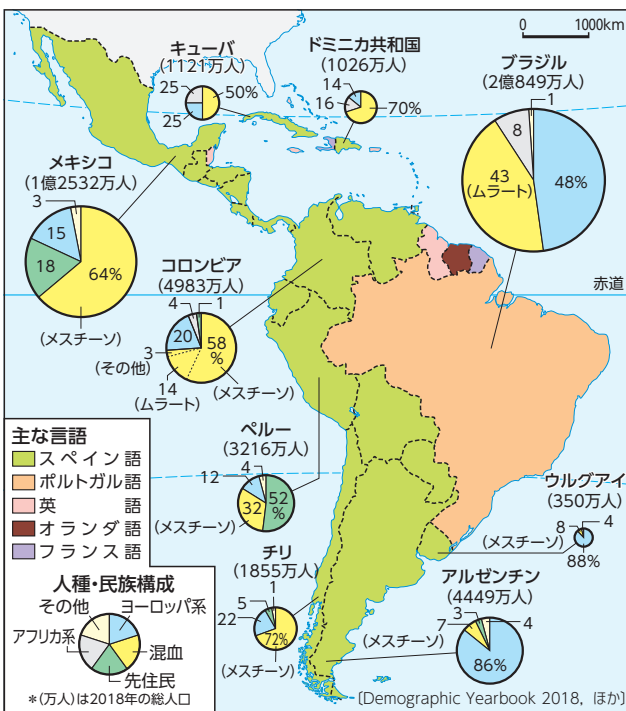


図1 「高等学校 新地理総合」 p.105

5 「ラテンアメリカの主な言語と人種・民族」

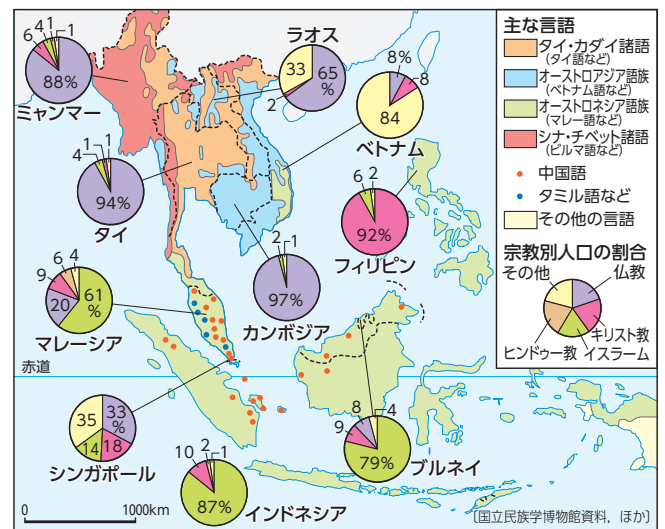


図2 「高等学校 新地理総合」 p.83

6 「東南アジアの言語と宗教」



表3 地理的な諸課題を主題に単元を構成した展開例

地理的な諸課題	世界の気候と人々の生活	視点	『新地理総合』における追究事例のテーマ	『新地理総合』で取り上げた国・地域
資源・エネルギー問題	乾燥帯の生活	自然環境(地形・気候)	乾燥した大陸と太平洋の島々での生活	オセアニア
		言語・宗教	イスラームと人々の生活の関わり	中央アジア・西アジア・北アフリカ
	亜寒帯・寒帯の生活	歴史的背景	国家体制の変化と人々の生活の関わり	ロシア
食料・人口問題	温帯の生活	産業の営み	産業力が世界の生活文化に与える影響	アメリカ合衆国
	熱帯の生活	言語・宗教	ヒンドゥー教と人々の生活の関わり	インド
		歴史的背景	植民地支配の歴史と人々の生活の関わり	サハラ以南アフリカ
都市・居住問題	熱帯の生活	歴史的背景	移民の歴史と人々の生活の関わり	ラテンアメリカ
	温帯の生活	産業の営み	地域統合が人々の生活や産業に与える影響	ヨーロッパ

くことが考えられる。さらに、大気汚染と酸性雨を主題に、東アジアとヨーロッパを比較する。ともに、大気汚染と酸性雨が地球環境問題となっている地域であるが、早くに産業の近代化を進め、持続可能な開発を目指すヨーロッパと、経済成長をとげ、生活が変容しつつある東アジアでは、生活文化が異なる。このことに、教科書 p.163 5～8の図版・写真や p.135 9「中国のエネルギー消費量の変化」、10「大気汚染がひどい日にマスクをして通学する子どもたち」などを通して気付いていくことができるだろう。最後に、地球温暖化を主題に、オセアニアとロシアを比較する。ともに、地球温暖化が地球環境問題となっている地域であるが、熱帯気候区に位置し、サンゴ礁の島々の水没の恐れがあるオセアニアと亜寒帯・寒帯気候区に属し、永久凍土の融解の恐れのあるロシアでは、生活文化が異なる。教科書 p.74 4「高床の住居」や、地図帳 p.103 3「ツバルの浸水と海面上昇」などを使って展開していくことが考えられる。これらの学習を通して、生徒たちは世界の人々の生活文化は多様であり、また変容していて、国際理解を図ることなしに、地球環境問題は解決しないと理解していくことができる。

表3は、地理的な諸課題を主題に単元を構成した展開例である。この場合も、地理的な諸課題を通して、世界の人々の生活文化が多様であるという気付きから、国際理解を図ることの重要性を理解していくことができる。

では、このような学習にはどのような学習活動がふさわしいのだろうか。様々な主題を設定し、様々な追究事例地域を取り上げ、生活文化の多様性に気付く学習には多くの授業時間を必要とする。「地理総合」の標準単位数は2単位であり、年間授業時間数は限られている。そこで、グループごとの調べ学習で共有する学習活動が考えられる。各グループは地球環境問題の主題ごとや、地理的な諸課題の主題ごとに複数の追究事例を比較する。生徒の状況によっては、視点や追究事例のテーマごとに担当する場合もありうる。また、その共有方法も学

級で発表したり、共有用の教科書を作成したり、説明用の動画を作成し共有したり、ジグソー法によって共有したりするなど、様々な学習活動が考えられる。どの学習活動の場合も、各グループの調べ学習を作成し、共有することが単元の目的ではない。共有することで、生活文化の多様性に気付き、様々な地理的な諸課題を解決するためには、国際理解を図ることが必要不可欠であると理解することが重要である。これらの調べ学習には、教科書 p.4に掲載されているQRコードから閲覧・活用できるGIS教材「アクセス WebGIS」が有効である。教科書にも掲載されている、「植民地支配の影響が残るアフリカの産業」、「世界の食卓に影響を与える農業」、「産業の発展を支えてきた移民の力」、「EU統合による工業や社会への影響」など様々なテーマで、調べ学習に利用しやすいコンテンツが準備されている。「アクセス WebGIS」では様々な統計資料を、相違点や共通点を見いだしやすい主題図などで表現することができる。

## 6 おわりに

生活文化の多様性を見いだし、国際理解を図ることの重要性を理解するためには、教員が生活文化が多様であることを教えても、国際理解を図ることの重要性を理解することにはいたらない。生徒自らが、地理的な諸課題を通して、生活文化の多様性を見いだし、その解決のためには、国際理解を図ることが重要であることに気付くことが必要である。そのためには、カリキュラム・マネジメントにもとづき、年間計画を見据え、単元を構成することが、「生活文化の多様性と国際理解」の実践では最も重要であり、その際に、目の前にいる生徒の状況に合わせた、柔軟な取り組みが求められる。

### 〈参考文献〉

- ・文部科学省(2019)『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』東洋館出版社
- ・文部科学省(2018)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』東洋館出版社